

56)

五苓散坐薬の調製と臨床報告

愛知県厚生農業協同組合連合会愛北病院 小児科・薬剤科*

○前田正雄*, 佐藤真幾*, 大橋昭任*, 水野淑子, 溝口文子, 吉田正己

[目的] 幼小児の吐気、嘔吐は薬剤投与に際し障害となり、外来診療では苦慮することが多い。五苓散は証を問わずに嘔吐に有効な漢方製剤であるが、吐気がある場合は飲み難い。

今回我々は本剤の坐薬を作製し、その硬度、溶融時間および有効性について検討したので報告する。

[対象及び方法] 使用薬剤はツムラ五苓散を使用し基剤はホスコS-55を用いた。試料として含有量の異なる3種類の五苓散坐薬(33%、50%、60%)を作製した。坐薬コンテナは丸石製薬の1.35mlを使用した。硬度はFUDOH社のRheo Meterにより求めた。溶融時間は37度の空気浴中で溶融するまでの時間で求めた。なお硬度及び溶融時間の対照には日本チバガイギーのボルタレンサボ25mgを使用した。

臨床的検討は本院小児科を受診した消化不良症など31例(1-10歳)を対象とした。効果判定は坐薬使用後30分後に水分を摂取させ、吐気と嘔吐の消失した例を有効とし、嘔吐はないが吐気が残ったものをやや有効と判定した。

[結果] 硬度は五苓散の含有量が増すごとに硬度もまし、どの試料も対照より高い硬度を示した。溶融時間は五苓散の含有量が増すごとに短い時間になり、どの試料も対照より短い時間であった。この結果より現在市販されている対照より硬くしかも体温ですみやかに溶けるので坐薬の物理的性質において臨床使用上問題はないと思われた。治療効果では31例中、有効が20例・やや有効が4例で、やや有効以上は24例(77%)と良好な結果であった。

[結語] 今回、五苓散坐薬を使用して、その硬度及び溶融時間の検討と臨床的検討を行ない、有効な印象をもった。今後、本坐薬投与時の薬物動態、対照薬剤とのコントロールスタディーなどを検討してゆくつもりである。